

育児について

1. 育児に対する意識

(1) 子育てに対する楽しさ・つらさ(問13)

【全員に】

問13 あなたは、子育てに楽しさを感じるときが多いですか、それともつらさを感じるときが多いですか。この中から1つだけ選んでください。

(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)

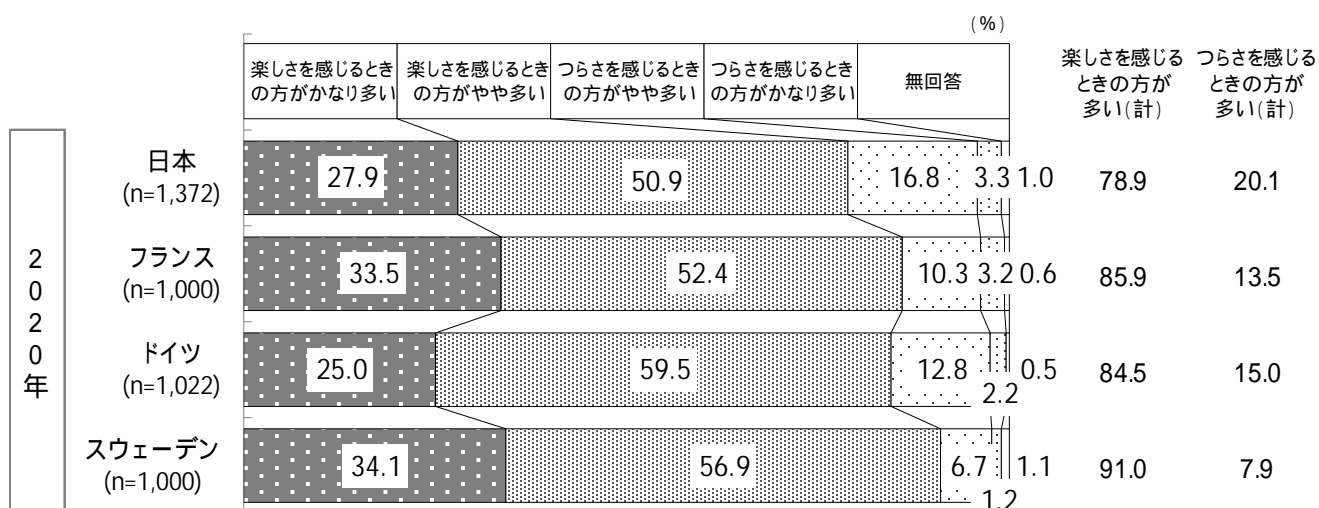
(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 楽しさを感じるときの方がかなり多い | 3 つらさを感じるときの方がやや多い |
| 2 楽しさを感じるときの方がやや多い | 4 つらさを感じるときの方がかなり多い |

子育てに楽しさを感じるときが多いか聞いたところ、日本では、「楽しさを感じるときの方がかなり多い」(27.9%)と「楽しさを感じるときの方がやや多い」(50.9%)を合計した『楽しさを感じるときの方が多い(計)』は78.9%となっている。

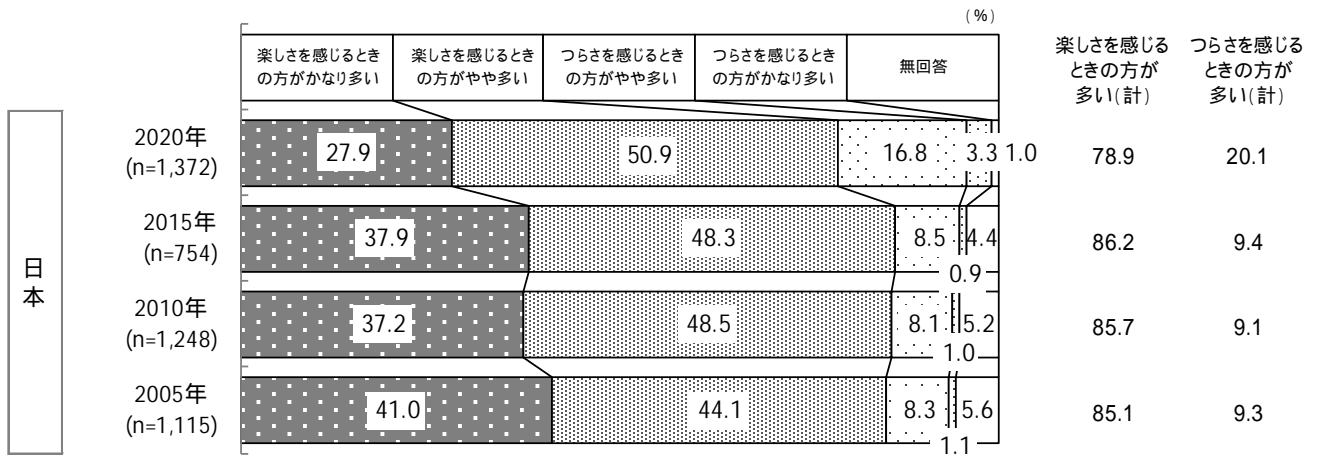
各国の結果を比較すると、いずれの国でも『楽しさを感じるときの方が多い(計)』という回答が大多数を占めており、スウェーデンが91.0%で最も高く、フランス(85.9%)、ドイツ(84.5%)、日本(78.9%)の順である。(図 - 1)

図 - 1 子育てに対する楽しさ・つらさ(4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、『楽しさを感じる時のほうが多い(計)』が2015年度調査の86.2%より7.3ポイント減少している。(図 - 2)

図 - 2 子育てに対する楽しさ・つらさ(日本)



注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

(2) 子育てをして良かったと思うこと(問14)

問14 あなたが、子育てをしていて、良かったと思うことは何ですか。当てはまるものをいくつでも選んでください。(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)(○はいくつでも)

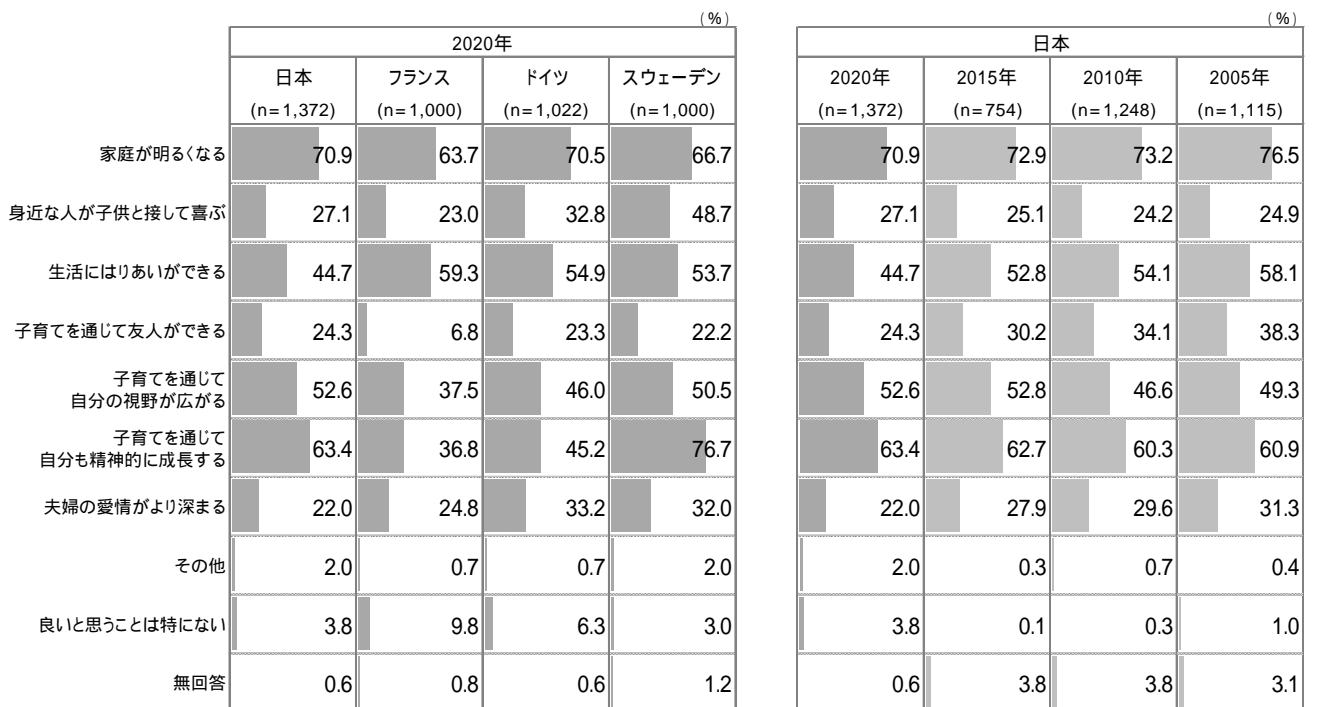
- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 家庭が明るくなる | 6 子育てを通じて自分も精神的に成長する |
| 2 身近な人が子供と接して喜ぶ | 7 夫婦の愛情がより深まる |
| 3 生活にはりあいができる | 8 その他() |
| 4 子育てを通じて友人ができる | 9 良いと思うことは特にな |
| 5 子育てを通じて自分の視野が広がる | |

子育てをしていて、良かったと思うことは何か聞いたところ、日本では、「家庭が明るくなる」が70.9%と最も高く、以下、「子育てを通じて自分も精神的に成長する」(63.4%)、「子育てを通じて自分の視野が広がる」(52.6%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランス・ドイツでは、日本と同様、「家庭が明るくなる」の割合が最も高くなっている(フランス:63.7%、ドイツ:70.5%)。スウェーデンでは「子育てを通じて自分も精神的に成長する」の割合が76.7%と最も高くなっている。

日本について過去の結果と比較すると、「生活にはりあいができる」(44.7%)が2015年度調査の52.8%より8.1ポイント減少している。(図 - 3)

図 - 3 子育てをして良かったと思うこと



注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

(3) 子育てをして負担に思うこと (問 1 5)

問 15 あなたが、子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。
 この中からいくつでも選んでください。(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする
 場合を想定して選んでください。)(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 子育てによる身体の疲れが大きい | 7 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない |
| 2 子育てによる精神的疲れが大きい | 8 子供が病気のと |
| 3 子育てに出費がかさむ | 9 その他 () |
| 4 自分の自由な時間が持てない | 10 負担に思うことは特 |
| 5 夫婦で楽しむ時間がない | |
| 6 仕事が十分にできない | |

子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことが聞いたところ、日本では、「子育てに出費がかさむ」が 55.6%と最も高く、以下、「自分の自由な時間が持てない」(46.0%)、「子育てによる精神的疲れが大きい」(43.1%)、「子育てによる身体の疲れが大きい」(42.6%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランスでは、日本と同様、「子育てに出費がかさむ」(43.8%)が最も高い。ドイツでは、「子育てによる身体の疲れが大きい」(50.5%)と「子育てに出費がかさむ」(50.4%)が最も高い。スウェーデンでは、「子育てによる身体の疲れが大きい」が 61.6%と最も高くなっている。

日本について過去の結果と比較すると、「子育てによる精神的疲れが大きい」(43.1%)が 2015 年度調査の 28.5%より 14.6 ポイント、「子育てによる身体の疲れが大きい」(42.6%)が 2015 年度調査の 30.8%より 11.8 ポイント増加している。(図 - 4)

図 - 4 子育てをして負担に思うこと

	2020年 (%)				日本 (%)			
	日本 (n=1,372)	フランス (n=1,000)	ドイツ (n=1,022)	スウェーデン (n=1,000)	2020年 (n=1,372)	2015年 (n=754)	2010年 (n=1,248)	2005年 (n=1,115)
子育てによる身体の疲れが大きい	42.6	27.9	50.5	61.6	42.6	30.8	26.2	23.8
子育てによる精神的疲れが大きい	43.1	38.4	28.5	39.8	43.1	28.5	28.9	29.2
子育てに出費がかさむ	55.6	43.8	50.4	38.8	55.6	49.6	47.2	46.5
自分の自由な時間が持てない	46.0	23.6	32.8	28.5	46.0	41.5	41.2	42.4
夫婦で楽しむ時間がない	16.3	21.4	28.3	24.7	16.3	12.9	13.3	12.3
仕事が十分にできない	16.3	7.5	38.3	20.6	16.3	16.0	17.6	15.2
子育てが大変なことを 身近な人が理解してくれない	6.9	5.2	20.1	13.0	6.9	4.1	3.5	4.1
子供が病気のと	33.0	28.2	34.2	41.5	33.0	36.3	35.7	36.3
その他	1.6	0.6	1.6	3.6	1.6	0.1	0.0	0.1
負担に思うことは特	8.7	21.2	10.4	8.1	8.7	6.0	6.4	11.0
無回答	0.6	0.3	0.5	1.2	0.6	3.8	3.6	3.6

注: 「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

2. 育児を担う者

(1) 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について(問16)

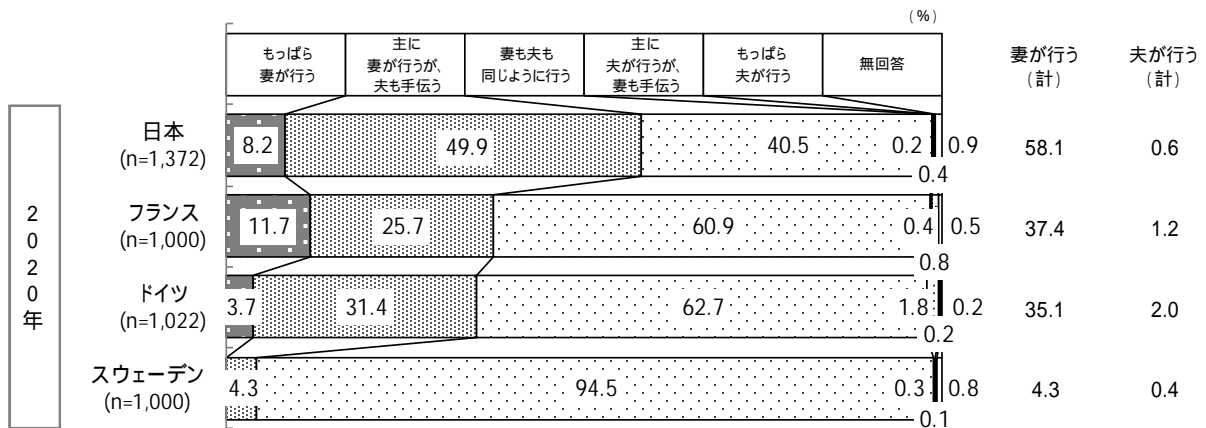
問16 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について、あなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 もっぱら妻が行う | 4 主に夫が行うが、妻も手伝う |
| 2 主に妻が行うが、夫も手伝う | 5 もっぱら夫が行う |
| 3 妻も夫も同じように行う | |

小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割についての考えを聞いたところ、日本では、「主に妻が行うが、夫も手伝う」(49.9%)が約半数を占めており、「妻も夫も同じように行う」(40.5%)が続く。

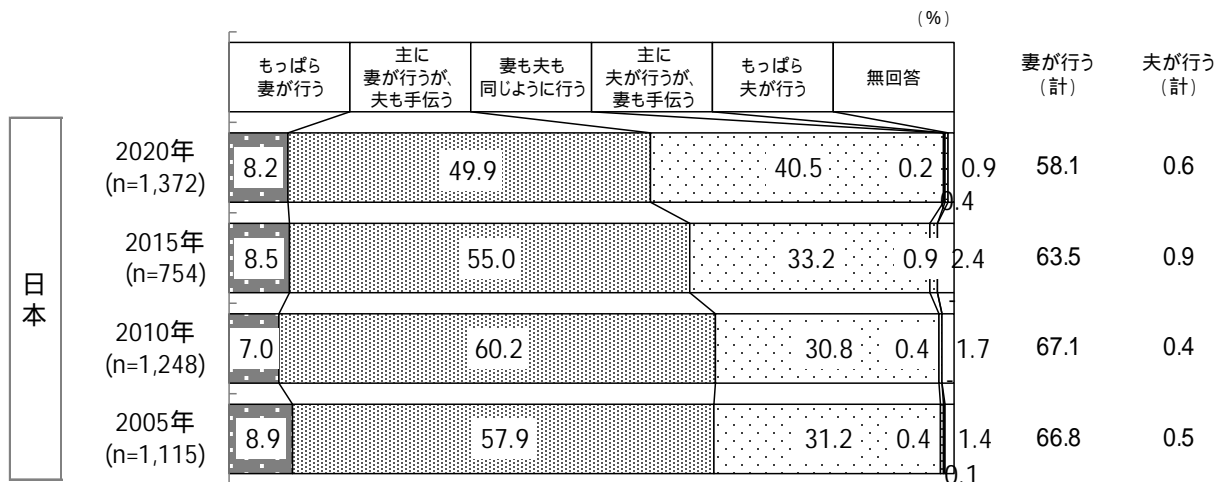
各国の結果を比較すると、欧州3か国では「妻も夫も同じように行う」(フランス：60.9%、ドイツ：62.7%、スウェーデン：94.5%)と回答した人の割合が6割を超えており、スウェーデンで9割台と特に高くなっている。(図 - 5)

図 - 5 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について(4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、「妻も夫も同じように行う」(40.5%)が前回2015年度調査の33.2%より7.3ポイント増加している。(図 - 6)

図 - 6 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について(日本)



注：「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

(2) 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行ってほしいこと(問17 1) **変更の質問

【問7aで子供の数を「1人」以上と回答した子供のいる方に】

問17(男性に)小学校入学前の育児について、あなたのご家庭で、あなたご自身が配偶者・パートナーと同程度、あるいはあなたご自身が主として・・・

(1) 行いたい(行いたかった)ことは何ですか。(○はいくつでも)

(女性に)小学校入学前の育児について、あなたのご家庭で、配偶者・パートナーがあなたご自身と同程度、あるいは配偶者・パートナーが主として・・・

(1) 行ってほしい(行ってほしかった)ことは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 食事の世話をする | 7 日常生活上のしつけ |
| 2 おむつを取り換える | 8 保育所・幼稚園(日中預けている場所)の送り迎え |
| 3 入浴させる | 9 ベビーシッター等の手配・交渉 |
| 4 寝かしつける | 10 その他() |
| 5 家の中で、話や遊び相手をする | 11 行ってほしいことはない |
| 6 散歩など、屋外へ遊びに連れて行く | 12 配偶者・パートナーはいない(いなかった) |

子供のいる方に、家庭の中で、小学校入学前の育児において、男性には妻と同程度あるいは自身の方が主として行いたい(行いたかった)こと、女性には自身と同程度あるいは夫の方が主として行ってほしい(行ってほしかった)ことは何か聞いたところ、日本では、「散歩など、屋外へ遊びに連れて行く」(52.8%)と「家の中で、話や遊び相手をする」(51.9%)が最も高く、「入浴させる」(47.3%)が続く。

各国の結果を比較すると、欧州3か国ではほぼ全ての項目で日本より高い割合となっている。フランスでは「日常生活上のしつけ」(77.0%)、ドイツでは「家の中で、話や遊び相手をする」(79.2%)、スウェーデンでは「寝かしつける」(73.8%)がそれぞれ最も高い。

日本について前回2015年度調査の結果と比較すると、「食事の世話をする」(16.3% 38.3%)、「保育所・幼稚園(日中預けている場所)の送り迎え」(19.9% 38.7%)、「寝かしつける」(27.5% 45.9%)、「おむつを取り換える」(21.9% 39.8%)がそれぞれ20ポイント前後増加している。(図 - 7)

図 - 7 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行ってほしいこと

	2020年 (%)				日本 (%)	
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)	2020年 (n=752)	2015年 (n=448)
食事の世話をする	38.3	66.2	61.2	72.6	38.3	16.3
おむつを取り換える	39.8	52.0	57.4	69.9	39.8	21.9
入浴させる	47.3	61.6	55.8	65.9	47.3	56.5
寝かしつける	45.9	66.8	74.1	73.8	45.9	27.5
家の中で、話や遊び相手をする	51.9	74.6	79.2	72.8	51.9	54.2
散歩など、屋外へ遊びに連れて行く	52.8	75.0	75.9	72.8	52.8	58.5
日常生活上のしつけ	40.4	77.0	62.1	66.3	40.4	35.9
保育所・幼稚園(日中預けている場所)の送り迎え	38.7	56.2	60.0	71.1	38.7	19.9
ベビーシッター等の手配・交渉	7.2	27.4	25.7	42.0	7.2	1.6
その他	2.0	0.4	1.1	5.2	2.0	0.4
行ってほしいことはない	5.9	2.2	3.6	7.1	5.9	4.5
配偶者・パートナーはいない(いなかった)	0.8	4.0	2.7	2.9	0.8	
無回答	13.7	0.2	1.1	3.5	13.7	2.7

注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(3) 普段、子供の世話をするのは誰か(問18 1) *新規の質問

【問7aで子供の数を「1人」以上と回答した子供のいる方に】

問18 小学校入学前の育児について・・・

(1) 普段、子供を世話するのは誰ですか(誰でしたか)。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 自分自身 | 7 自分の親又は配偶者の親 |
| 2 配偶者(パートナーを含む。以下同じ) | 8 自分のきょうだい又は配偶者のきょうだい |
| 3 保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む) | 9 近所の人 |
| 4 保育ママ・ベビーシッター | 10 友人 |
| 5 勤め先にある保育施設 | 11 その他() |
| 6 幼稚園(スウェーデン:就学前学童保育) | |

子供のいる方に、普段子供世話をするのは誰か(誰だったか)聞いたところ、日本では、「自分自身」(72.6%)が最も高い。以下、「配偶者(パートナーを含む)」(61.2%)、「保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む)」(38.0%)などの順である。

各国の結果を比較すると、フランス、ドイツでは、日本と同様「自分自身」の割合が最も高い(フランス:80.4%、ドイツ:65.6%)。スウェーデンでは、「保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む)」(80.2%)が最も高い。(図 - 8)

図 - 8 普段、子供の世をする人

	2020年 (%)			
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)
自分自身	72.6	80.4	65.6	74.4
配偶者(パートナーを含む。 以下同じ)	61.2	70.2	59.2	73.8
保育所(認可以外の保育所、 保育園等を含む)	38.0	19.0	54.5	80.2
保育ママ・ベビーシッター	0.8	25.0	10.7	5.0
勤め先にある保育施設	1.7	0.8	3.3	0.2
幼稚園	22.9	25.8	11.4	9.8
自分の親又は配偶者の親	26.7	34.0	28.3	29.1
自分のきょうだい 又は配偶者のきょうだい	3.3	10.2	9.8	6.4
近所の人	0.8	2.8	3.6	1.5
友人	1.1	3.6	6.0	3.5
その他	0.4	0.6	1.3	1.5
無回答	0.9	-	0.4	1.3

(4) 突然の用事の際に、子供の世話を誰に頼むか (問18 2) **変更の質問

【問7aで子供の数を「1人」以上と回答した子供のいる方に】

問18 小学校入学前の育児について・・・

(2) 突然の用事のために子供の世話をすることができないとき、誰に援助を頼みますか (頼みましたか) (○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 2 配偶者(パートナーを含む。以下同じ) | 7 自分の親又は配偶者の親 |
| 3 保育所(認可外の保育所、保育園等を含む) | 8 自分のきょうだい又は配偶者のきょうだい |
| 4 保育ママ・ベビーシッター | 9 近所の人 |
| 5 勤め先にある保育施設 | 10 友人 |
| 6 幼稚園(スウェーデン：就学前学童保育) | 11 その他() |

子供のいる方に、突然の用事のために、子供の世話をすることができないとき、誰に援助を頼むか(頼んだか)聞いたところ、日本では、「自分の親又は配偶者の親」が77.1%と最も高く、以下、「配偶者(パートナーを含む)」(40.4%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランス、スウェーデンでは、日本と同様「自分の親又は配偶者の親」(フランス：65.2%、スウェーデン：77.6%)、「配偶者(パートナーを含む)」(フランス：61.4%、スウェーデン：70.3%)の順となっている。ドイツでは、「配偶者(パートナーを含む)」(71.0%)、「自分の親又は配偶者の親」(63.6%)の順となっている。(図 - 9)

図 - 9 突然の用事の際に、子供の面倒を誰に頼むか (%)

	2020年			
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)
配偶者(パートナーを含む。以下同じ)	40.4	61.4	71.0	70.3
保育所(認可外の保育所、保育園等を含む)	13.6	8.8	35.9	27.7
保育ママ・ベビーシッター	1.5	15.2	16.3	4.0
勤め先にある保育施設	0.5	0.8	5.6	0.8
幼稚園	6.1	5.2	7.4	5.4
自分の親又は配偶者の親	77.1	65.2	63.6	77.6
自分のきょうだい又は配偶者のきょうだい	11.2	22.8	33.9	44.5
近所の人	2.8	10.6	8.7	12.1
友人	5.6	11.2	25.4	37.6
その他	1.1	1.2	1.3	2.1
無回答	6.9	-	0.2	1.2

3. 出産・育児休暇

(1) 出産・育児休暇の取得意向 (問19) **変更の質問

【問7aで子供の数を「1人」以上と回答した子供のいる方に】

問19 一番下のお子さんが生まれたときのことを教えてください。

(男性に) あなたは出産・育児に関する休暇を取りたかったですか。(○は1つだけ)

(女性に) あなたの配偶者・パートナーに出産・育児に関する休暇を取ってもらいたかったですか。

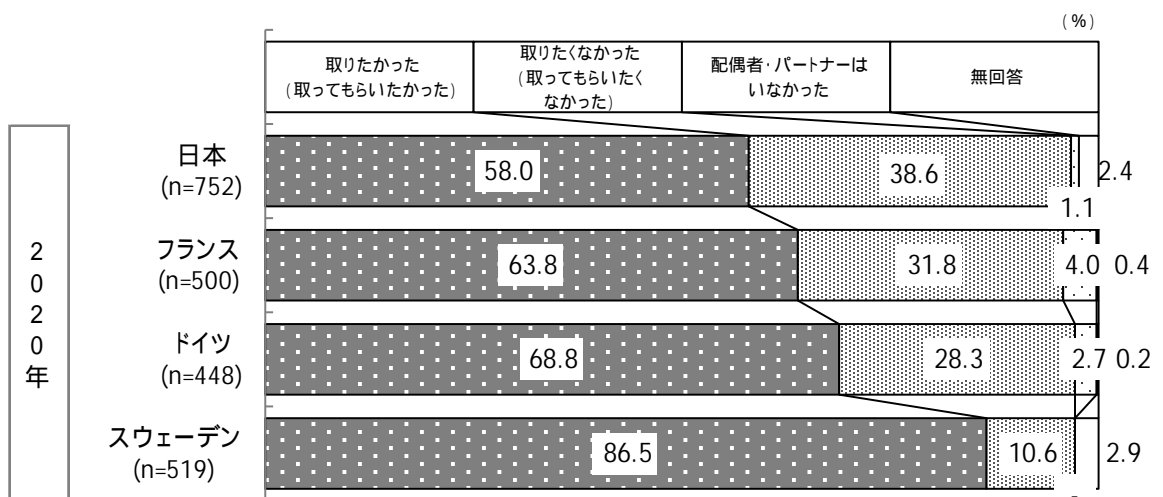
(○は1つだけ)

- 1 取りたかった(取ってもらいたかった)
- 2 取りたくなかった(取ってもらいたくなかった)
- 3 配偶者・パートナーはいなかった

子供のいる方に、一番下の子供が生まれたとき、男性には自身が出産・育児に関する休暇を取りたかったか、女性には配偶者・パートナーに出産・育児に関する休暇を取ってもらいたかったか聞いたところ、日本では、「取りたかった(取ってもらいたかった)」が58.0%となっている。

各国の結果を比較すると、「取りたかった(取ってもらいたかった)」はスウェーデン(86.5%)、ドイツ(68.8%)、フランス(63.8%)の順に高い。(図 - 10)

図 - 10 出産・育児休暇の取得意向



(2) 出産・育児休暇の取得期間意向 (問19SQ1) *新規の質問

【問19で「1 取りたかった(取ってもらいたかった)」と回答した方に】

問19SQ1

(男性に) どのくらいの期間、出産・育児に関する休暇を取りたかったですか。
1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

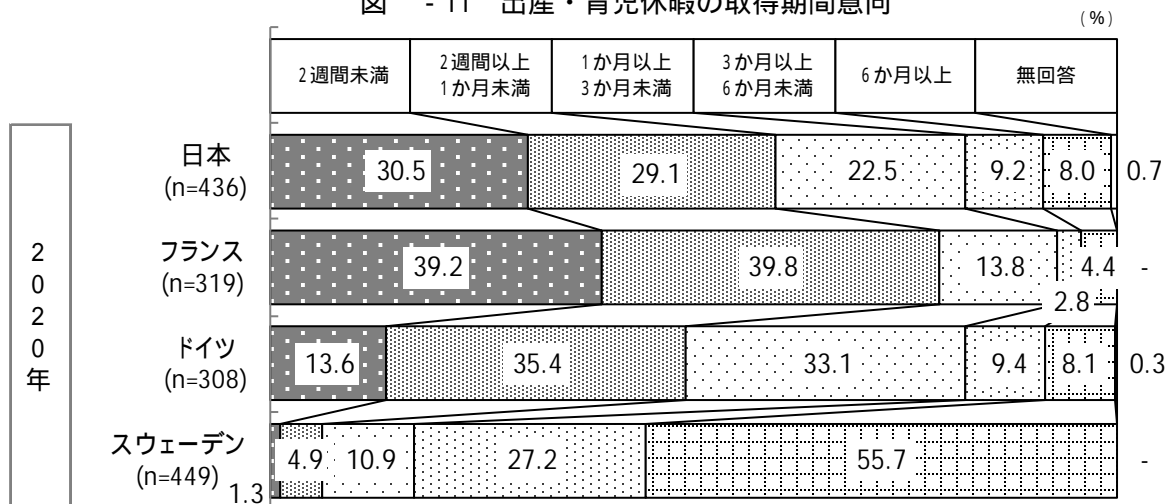
(女性に) どのくらいの期間、あなたの配偶者・パートナーに出産・育児に関する休暇を取ってもらいたかったですか。1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 2週間未満 | 4 3か月以上6か月未満 |
| 2 2週間以上1か月未満 | 5 6か月以上 |
| 3 1か月以上3か月未満 | |

一番下の子供が生まれたとき、出産・育児に関する休暇を取りたかった(取ってもらいたかった)方に、どのくらいの期間休暇を取りたかった(取ってもらいたかった)か聞いたところ、日本では、「2週間未満」(30.5%)が最も高く、「2週間以上1か月未満」(29.1%)、「1か月以上3か月未満」(22.5%)が続く。

各国の結果を比較すると、フランスでは、「2週間以上1か月未満」(39.8%)と「2週間未満」(39.2%)の割合が高い。ドイツでは「2週間以上1か月未満」(35.4%)が最も高く、「1か月以上3か月未満」(33.1%)が続く。スウェーデンでは、「6か月以上」が55.7%と過半数を超えている。(図 - 11)

図 - 11 出産・育児休暇の取得期間意向



(3) 出産・育児休暇を取得しない理由(問19SQ4) *新規の質問

【問19SQ2で「2 取らなかった」と回答した方に】

問19SQ4

(男性に) 出産・育児に関する休暇を取らなかった理由は何ですか。

当てはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

(女性に) あなたの配偶者・パートナーが出産・育児に関する休暇を取らなかった理由は何ですか。

当てはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 出産・育児に関する休暇制度がなかったから | 8 休むことによる、減収が懸念されたから |
| 2 出産・育児に関する休暇制度は存在したが、対象外だったから | 9 自宅での仕事(在宅勤務も含む)が多かったから |
| 3 出産・育児に関する休暇制度があると知らなかったから | 10 配偶者・パートナーからの要望がなかった、または反対されたから |
| 4 有給休暇など、別の休暇で対応できたから | 11 休む必要を感じなかったから
(親や兄弟姉妹付き添ってくれた等) |
| 5 業務が繁忙で休むことが難しかったから | 12 出産・育児は女性の役割だと思っていたから |
| 6 上司・同僚の理解が得られなかったから | 13 その他() |
| 7 昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がありそうだったから | |

一番下の子供が生まれたときの出産・育児に関する休暇について、男性の場合は取らなかった方、女性の場合は配偶者・パートナーが取らなかった方に、その理由を聞いたところ、日本では、「業務が繁忙で休むことが難しかったから」(39.4%)が最も高く、「出産・育児に関する休暇制度がなかったから」(37.4%)が続く。

各国の結果を比較すると、各国とも、日本と同様「業務が繁忙で休むことが難しかったから」が最も高い(フランス:32.0%、ドイツ:33.8%、スウェーデン:28.6%)。(図 - 12)

図 - 12 出産・育児休暇を取得しない理由

(%)

	2020年			
	日本 (n=591)	フランス (n=197)	ドイツ (n=160)	スウェーデン (n=63)
出産・育児に関する休暇制度がなかったから	37.4	21.3	26.3	7.9
出産・育児に関する休暇制度は存在したが、対象外だったから	2.2	7.6	6.9	4.8
出産・育児に関する休暇制度があると知らなかったから	5.1	3.6	6.3	3.2
有給休暇など、別の休暇で対応できたから	10.2	14.2	13.1	7.9
業務が繁忙で休むことが難しかったから	39.4	32.0	33.8	28.6
上司・同僚の理解が得られなかったから	9.0	3.0	16.3	7.9
昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がありそうだったから	13.4	7.1	12.5	19.0
休むことによる、減収が懸念されたから	26.2	9.6	20.6	25.4
自宅での仕事(在宅勤務も含む)が多かったから	1.5	3.6	4.4	4.8
配偶者・パートナーからの要望がなかった、または反対されたから	9.0	10.2	12.5	25.4
休む必要を感じなかったから (親や兄弟姉妹付き添ってくれた等)	24.7	12.2	15.0	11.1
出産・育児は女性の役割だと思っていたから	10.2	9.6	6.3	-
その他	4.4	2.0	8.1	25.4
無回答	0.8	0.5	1.3	-

(4) 出産・育児休暇を取得するための条件(問19SQ5) *新規の質問

【問19SQ2で「2 取らなかった」と回答した方に】

問19SQ5

(男性に) 出産・育児に関する休暇をどうすれば取れると思いますか。

当てはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

(女性に) あなたの配偶者・パートナーは、出産・育児に関する休暇をどうすれば取れると思いますか。

当てはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 業務が繁忙でなければ | 5 配偶者・パートナーからの要望があれば |
| 2 上司・同僚の理解が得られれば | 6 男性が家事・育児に参加する意義がわかれば |
| 3 昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がなければ | 7 法的強制力のある仕組みや制度があれば |
| 4 休むことによる減収等の心配がなければ | 8 その他() |

一番下の子供が生まれたときの出産・育児に関する休暇について、男性の場合は取らなかった方、女性の場合は配偶者・パートナーが取らなかった方に、どうすれば取れると思うかを聞いたところ、日本では、「休むことによる減収等の心配がなければ」(50.1%)が最も高く、以下、「上司・同僚の理解が得られれば」(42.8%)、「法的強制力のある仕組みや制度があれば」(41.6%)、「業務が繁忙でなければ」(41.5%)などの順である。

各国の結果を比較すると、フランスでは「業務が繁忙でなければ」(47.2%)、ドイツでは「休むことによる減収等の心配がなければ」(50.6%)、スウェーデンでは「配偶者・パートナーからの要望があれば」(42.9%)がそれぞれ最も高い。(図 - 13)

図 - 13 出産・育児休暇を取得するための条件

	2020年 (%)			
	日本 (n=591)	フランス (n=197)	ドイツ (n=160)	スウェーデン (n=63)
業務が繁忙でなければ	41.5	47.2	19.4	15.9
上司・同僚の理解が得られれば	42.8	9.6	28.8	15.9
昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がなければ	30.1	10.7	36.3	28.6
休むことによる減収等の心配がなければ	50.1	21.8	50.6	34.9
配偶者・パートナーからの要望があれば	15.1	26.4	31.9	42.9
男性が家事・育児に参加する意義がわかれば	14.6	6.1	11.3	11.1
法的強制力のある仕組みや制度があれば	41.6	3.0	15.0	14.3
その他	3.4	4.1	1.9	11.1
無回答	2.9	0.5	1.3	1.6

4. 子供の育て方

(1) 民間サービスの利用実態 (問20) * 新規の質問

【問7 aで子供の数を「1人」以上と回答した子供のいる方に】

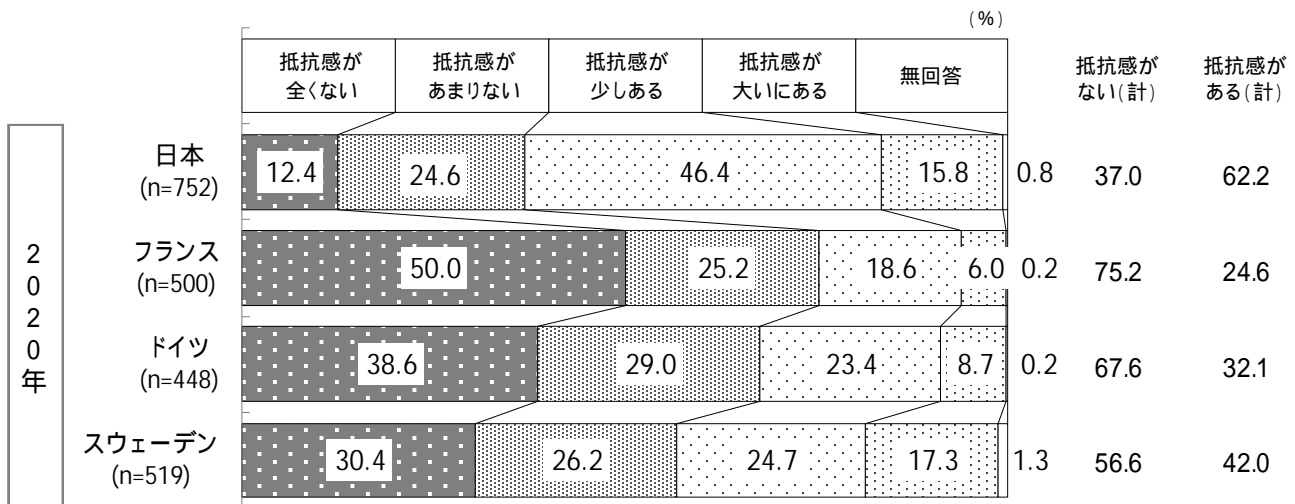
問20 ご自身の子育ての負担軽減のために、行政機関が実施する施策以外の民間サービス（ベビーシッターや家事支援サービス）を利用することについて、どのように感じますか。
あなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

- 1 抵抗感が全くない
- 2 抵抗感があまりない
- 3 抵抗感が少しある
- 4 抵抗感が大いにある

子供のいる方に、子育てを支援する民間サービス（ベビーシッターや家事支援サービス）を利用することについて聞いたところ、日本では、「抵抗感が全くない」（12.4%）と「抵抗感があまりない」（24.6%）を合計した『抵抗感がない（計）』は37.0%となっている。

各国の結果を比較すると、『抵抗感がない（計）』の割合はフランス（75.2%）が最も高く、ドイツ（67.6%）、スウェーデン（56.6%）、日本（37.0%）の順である。（図 - 14）

図 - 14 民間サービスの利用に関する考え方



(2) 育児に関する悩みがあるときに誰に相談するか (問 2 2)

【問 7 a で子供の数を「 1 人」以上と回答した子供のいる方に】

問 22 育児に関する悩みがあるときに、誰に又はどこへ相談をしますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 配偶者 (パートナーを含む。以下同じ) | 10 学校 (教師、スクールカウンセラー、養護教諭) |
| 2 自分の親又は配偶者の親 | 11 地域の子育て支援センター・母子保健センターなど |
| 3 自分のきょうだい又は配偶者のきょうだい | 12 ベビーシッター |
| 4 子育て仲間 | 13 育児や発達に関する専門機関 |
| 5 近所の人 | 14 インターネットの掲示板、ブログ、SNS、ツイッターなど |
| 6 友人 | 15 その他 () |
| 7 同僚 | 16 そのような人 (機関) はない |
| 8 保育所、保育施設、保育ママ | |
| 9 子育て関連の N P O | |

育児に関する悩みがあるときに、誰に又はどこへ相談をするか聞いたところ、日本では、「配偶者 (パートナーを含む)」が 81.1% と最も高く、以下、「自分の親又は配偶者の親」(71.5%)、「友人」(46.1%) などの順となっている。

各国の結果を比較すると、各国とも、日本と同様「配偶者 (パートナーを含む)」(フランス : 62.2%、ドイツ : 78.1%、スウェーデン : 83.0%)、「自分の親又は配偶者の親」(フランス : 60.0%、ドイツ : 62.9%、スウェーデン : 69.4%) の順となっている。

日本について過去の結果と比較すると、2015 年度調査より「配偶者 (パートナーを含む)」(2015 年 : 62.5% 2020 年 : 81.1%) が 18.6 ポイント、「学校 (教師、スクールカウンセラー、養護教諭)」(6.5% 18.0%) が 11.5 ポイント増加している。(図 - 15)

図 - 15 育児に関する悩みがあるときに誰に相談するか

	2020年 (%)				日本 (%)	
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)	2020年 (n=752)	2015年 (n=448)
配偶者(パートナーを含む。 以下同じ)	81.1	62.2	78.1	83.0	81.1	62.5
自分の親又は配偶者の親	71.5	60.0	62.9	69.4	71.5	68.5
自分のきょうだい 又は配偶者のきょうだい	28.7	23.4	37.3	36.8	28.7	26.6
子育て仲間	39.1	24.6	41.5	49.5	39.1	30.1
近所の人	6.3	4.4	8.7	5.8	6.3	4.9
友人	46.1	40.2	55.8	64.4	46.1	43.5
同僚	19.7	11.2	12.1	24.5	19.7	13.4
保育所、保育施設、保育ママ	20.2	7.4	25.9	38.2	20.2	10.3
子育て関連のNPO	0.9	1.6	4.7	1.3	0.9	0.9
*学校(教師、スクールカウンセラー、 養護教諭)	18.0	10.0	18.3	32.0	18.0	6.5
**地域の子育て支援センター ・母子保健センターなど	11.3	3.0	4.0	40.5	11.3	4.7
ベビーシッター	0.1	2.2	6.0	0.6	0.1	0.4
育児や発達に関する専門機関	6.4	3.6	4.9	18.5	6.4	4.2
インターネットの掲示板、ブログ、 SNS、ツイッターなど	15.0	10.2	6.9	22.4	15.0	5.6
その他	0.8	1.2	0.9	2.5	0.8	2.7
そのような人(機関)はない	1.7	4.6	0.9	0.2	1.7	1.3
無回答	0.4	0.0	0.0	0.8	0.4	0.4

*2015年は「学校」で聴取

**2015年は「自治体の子育て支援センターなどの行政機関」で聴取

注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(3) 子育てにかかる経済的な負担で大きなもの (問 2 3)

【問 7 a で子供の数を「 1 人」以上と回答した子供のいる方に】

問 23 あなたにとって、子育てにかかる経済的な負担として大きなものは何ですか。負担が大きいと思うものをいくつでも選んでください。(○ はいくつでも)

- | | |
|---|-------------------|
| 1 保育にかかる費用 (保育所・幼稚園、
保育ママや学童保育を含む) | 7 衣服費 |
| 2 学校教育費 | 8 住宅費 |
| 3 学習塾など学校以外の教育費 | 9 医療費 |
| 4 学習塾以外の習い事の費用 | 10 レジャー、レクリエーション費 |
| 5 通信費 (携帯電話の費用など) | 11 その他 () |
| 6 食費 | 12 特にない |

子育てにかかる経済的な負担として大きなものは何か聞いたところ、日本では、「学習塾など学校以外の教育費」(59.2%) が最も高く、以下、「学習塾以外の習い事の費用」(42.8%)、「保育にかかる費用 (保育所・幼稚園、保育ママや学童保育を含む)」(39.0%)、「学校教育費」(36.8%) などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランスとドイツでは「衣服費」(フランス : 53.6%、ドイツ : 60.3%)、スウェーデンでは、「学習塾以外の習い事の費用」(39.7%) がそれぞれ最も高い。

日本について過去の結果と比較すると、2015 年度調査より、「学習塾以外の習い事の費用」(2015 年 : 30.1% 2020 年 : 42.8%) が 12.7 ポイント、「衣服費」(15.8% 27.3%) が 11.5 ポイント増加している。(図 - 16)

図 - 16 子育てにかかる経済的な負担で大きなもの

	2020年 (%)				日本 (%)		
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)	2020年 (n=752)	2015年 (n=448)	2010年 (n=747)
保育にかかる費用(保育所・幼稚園、 保育ママや学童保育を含む)	39.0	32.8	38.4	19.1	39.0	40.4	32.1
学校教育費	36.8	22.2	31.9	0.6	36.8	34.6	22.8
学習塾など学校以外の教育費	59.2	14.6	24.3	2.5	59.2	49.3	36.5
学習塾以外の習い事の費用	42.8	48.0	14.3	39.7	42.8	30.1	19.9
通信費(携帯電話の費用など)	19.8	16.2	17.6	16.6	19.8	10.3	8.8
食費	30.5	39.6	33.9	19.8	30.5	24.1	18.5
衣服費	27.3	53.6	60.3	35.3	27.3	15.8	20.5
住宅費	13.4	15.0	23.0	7.9	13.4	10.5	7.0
医療費	10.8	11.6	13.6	0.8	10.8	13.8	12.7
レジャー、レクリエーション費	17.7	42.6	48.4	31.2	17.7	12.7	12.3
その他	1.3	0.2	0.7	3.9	1.3	-	0.1
特にない	4.5	5.0	13.8	25.6	4.5	4.2	9.8
無回答	0.4	-	0.2	1.9	0.4	0.7	1.2

注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

(4) 子育てにあたって利用したい制度(問24 1) **変更の質問

【問7 aで子供の数を「1人」以上と回答した子供のいる方に】

問24(1) あなたが、子育てに当たって利用したい、又は、利用しなかったと思う制度は次のうちどれですか。いくつでも選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|--|
| 1 出産・育児に関する休暇制度 | 6 保育ママ・ベビーシッター |
| 2 短時間勤務制度(1日の勤務時間を所定労働時間よりも短くして働くことができる制度) | 7 企業が従業員のために作った託児所 |
| 3 テレワーク・在宅勤務(情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない働き方・自宅を就業場所とする働き方) | 8 幼稚園 |
| 4 子供の看護のための休暇制度 | 9 放課後児童クラブ |
| 5 保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む) | 10 地域における子育て支援サービス
(ファミリーサポート、つどいの広場など) |
| | 11 その他() |
| | 12 特になし |

子育てにあたって利用したい制度について聞いたところ、日本では、「出産・育児に関する休暇制度」(49.2%)が最も高く、以下、「短時間勤務制度(1日の勤務時間を所定労働時間よりも短くして働くことができる制度)」(45.7%)、「子供の看護のための休暇制度」(43.2%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランス、スウェーデンでは、日本と同様「出産・育児に関する休暇制度」(フランス:42.4%、スウェーデン:91.9%)が最も高い。ドイツでは、「出産・育児に関する休暇制度」(57.8%)および「保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む)」(57.1%)が高い。スウェーデンでは、「出産・育児に関する休暇制度」が91.9%、「保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む)」が83.4%と、他国に比べて高い割合となっている。(図 - 17)

図 - 17 子育てにあたって利用したい制度

	2020年			
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)
出産・育児に関する休暇制度	49.2	42.4	57.8	91.9
短時間勤務制度(1日の勤務時間を所定労働時間よりも短くして働くことができる制度)	45.7	24.4	41.7	47.2
テレワーク・在宅勤務(情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない働き方・自宅を就業場所とする働き方)	31.6	14.4	24.1	33.1
子供の看護のための休暇制度	43.2	38.0	17.9	74.8
保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む)	31.3	22.6	57.1	83.4
保育ママ・ベビーシッター	9.7	28.0	25.0	10.6
企業が従業員のために作った託児所	17.0	4.6	10.0	3.7
幼稚園	21.3	28.6	24.6	66.9
放課後児童クラブ	23.5	25.0	34.2	64.9
地域における子育て支援サービス(ファミリーサポート、つどいの広場など)	15.4	6.6	15.0	40.3
その他	0.8	-	0.7	0.6
特にない	13.0	11.6	9.6	1.3
無回答	6.5	0.4	0.2	1.0

(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(問25)

【全員に】

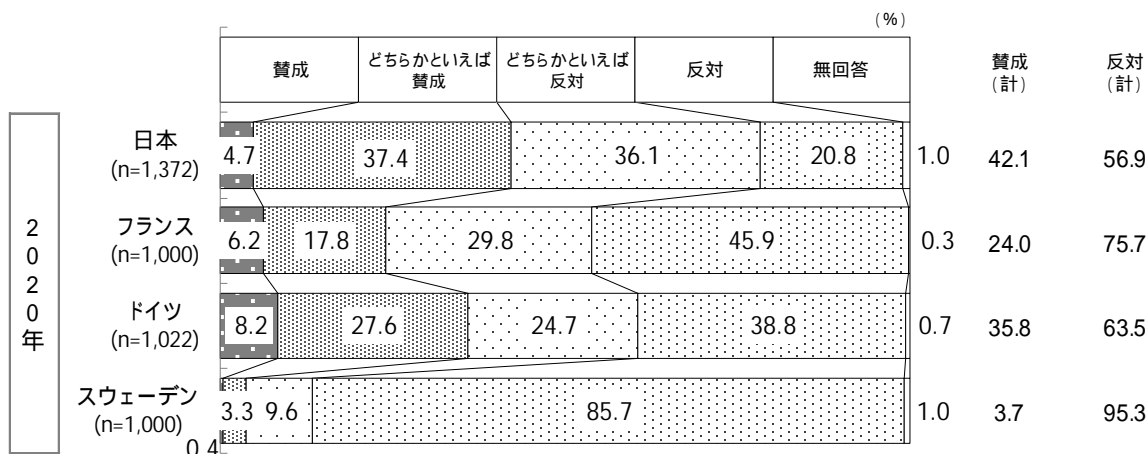
問25 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたは、どのように考えますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えるか聞いたところ、日本では、「反対」(20.8%)と「どちらかといえば反対」(36.1%)を合計した『反対(計)』が56.9%と過半数を占める。

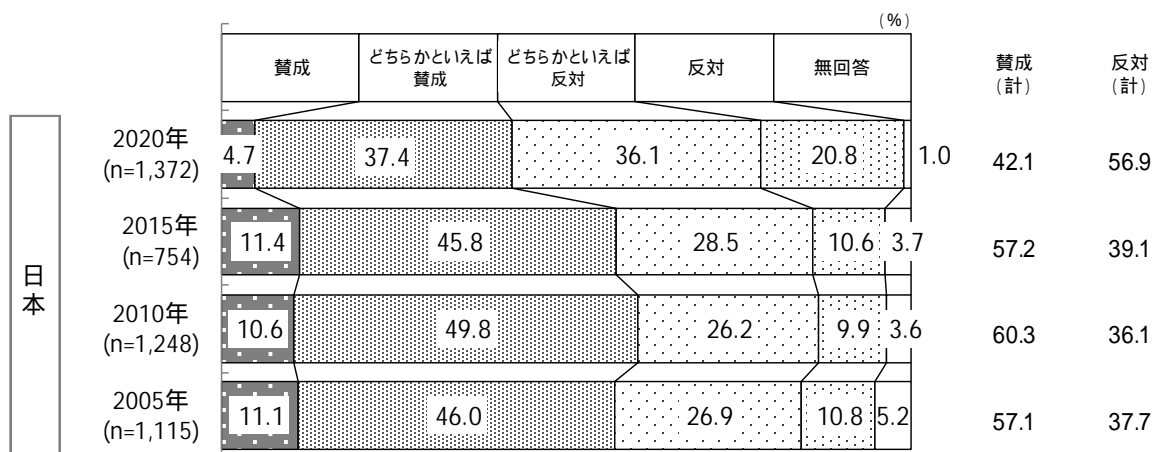
各国の結果を比較すると、『反対(計)』の割合はスウェーデン(95.3%)が最も高く、フランス(75.7%)、ドイツ(63.5%)、日本(56.9%)の順である。(図 - 18)

図 - 18 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、『反対(計)』(56.9%)が2015年度調査の39.1%より17.8ポイント増加し、今回の調査で初めて過半数を占めることとなった。(図 - 19)

図 - 19 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(日本)



注: 「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。